

2019年6月30日

日本ドイツ学会理事長 香川 檀

深井智朗氏に対する 2009 年度学会奨励賞の授賞取り消しについて

2010年6月の大会において深井智朗氏に授与された、2009年度ドイツ学会奨励賞の取り消しについて、ご報告いたします。

深井氏につきましては、今般、その著書『ヴァイマルの聖なる政治的精神』（岩波書店発行）に関して専門家から疑義が呈され、本年5月10日に深井氏の元勤務先である東洋英和女学院大学より、研究活動上の不正行為が認定されたとの発表がありました。

日本ドイツ学会では、同氏が2009年度に刊行した著書『十九世紀のドイツ・プロテスタントイズム——ヴィルヘルム帝政期における神学の社会的機能についての研究』（教文館発行）に対して、学会奨励賞を授与しておりました。その後、深井氏には会員として当学会の運営にも携わっていただきましたが、昨年、本人からの届け出により退会されています。

今般の研究不正の発覚を受け、当学会は、この2009年度の授賞について対応を協議するため、5月22日に臨時理事・幹事会を開催いたしました。学会が奨励賞の対象とした深井氏の著作は、今回問題になったものとは異なる10年前の研究書ではありますが、理事・幹事による協議の結果、賞の対象作についてではなく、氏の受賞後の研究活動のあり方について問題があると判断しました。

すなわち、当学会の奨励賞はその趣旨として、「将来性に富む優れた研究業績を顕彰」し、「ドイツ語圏に関する学際的学術研究の発展に資することを目的」とする、と謳っております。今回の不正発覚により、この賞の精神に結果的に背く行為が認められたこととなります。この点に鑑み、結論として、授賞の取り消しもやむなしとの判断に至りました。

これにより、当学会のホームページに掲載されている過去の学会奨励賞の記録から、該当の2009年度分を削除いたします。

また、今回の事態を受け、学会としての自己検証の意味から、授賞対象であった著作について内部調査を行う一方、学会奨励賞の選考のあり方についても、選考委員会にて再発防止のための対応策を検討しております。今後の具体的な改善策などについては、今年度内に学会ホームページにて公開する所存です。

以上

2020年1月6日

日本ドイツ学会理事長 近藤 孝弘

学会奨励賞（授賞取り消し）の対象作品に関する内部調査の結果報告

2019年6月30日付にて本学会ホームページでお知らせした、深井智朗氏に対する学会奨励賞の取消しに関して、その後、学会で実施した内部調査の結果をご報告いたします。

授賞対象となった同氏の著作『十九世紀のドイツ・プロテスタンティズム——ヴィルヘルム帝政期における神学の社会的機能についての研究』（教文館発行）について、学会内部で、その学術性に関する検証を実施いたしました。

この検証作業は、網羅的な調査を目指したのではなく、限られた時間的・物理的制約のもと、日本で入手可能な資料に基づいて追跡できる範囲で行なった調査ですが、それでも相当数の瑕疵があることが確認されました。具体的には、引用の出典元に該当する記述が見られないという不正確な出典注、原文を歪曲して翻訳する不適切な引用、また文中で言及される文献が文脈上、無関係なものであったり存在が確認できないものであったりする先行研究の不正確な参照、などが見られました。この著作が、キリスト教神学の枠を超えて、近代ドイツの歴史、政治、文化など様々な分野での研究にも貢献する射程をもつ意義は大きいとはいえ、学術的な信頼性に著しく欠けるものであることは否めません。

本学会は学際的な学会として、専門学会では評価されにくい挑戦的な著作を評価する学会奨励賞の制度を引き続き維持していきたいと考えています。そのためにも、今回の検証結果を受け、候補作品が選考委員会がカバーする専門領域から外れる場合、学会の内外を問わず、可能な限り近接分野の専門家に調査を委嘱するなどの対応によって、再発の防止に取り組む所存です。

以上